

# News Release

(別添)

2019年6月27日

NITE ( ナイト )

独立行政法人製品評価技術基盤機構

九州支所

## エアコン・扇風機の事故に注意(九州・沖縄8県版)

### ～6月から急増！火災事故～

気温が上がり、エアコン<sup>※1</sup> や扇風機<sup>※2</sup> を使う機会が増えてきます。毎年6月から8月はエアコン及び扇風機の火災事故が多く発生することを踏まえ、エアコン及び扇風機について注意喚起を行います。

NITE(ナイト)に通知された製品事故情報において、エアコン及び扇風機の事故は 2013 年度から 2017 年度までの5年間に九州・沖縄 8 県で合計 49 件<sup>※3</sup>(エアコン 34 件、扇風機 15 件)あり、1 人が死亡しています。

事故状況では5年間で火災事故が 48 件(エアコン 33 件、扇風機 15 件)とほとんどの事故で発生しています。

エアコンの電気コードの途中接続による事故や古い扇風機の部品が劣化して発火する事故が毎年発生しています。エアコンや扇風機の使用を開始する前に製品に異常がないかを確認し、事故を未然に防ぎましょう。

#### □ エアコンの注意事項

- リコール製品による事故を防ぐため、お持ちの製品がリコール対象かどうかを確認してください。リコール製品をお持ちの場合は、不具合が生じていなくても使用を中止し、お買い求めの販売店や製造・輸入事業者にご相談してください。
- 設置などが適切な形で行われているか確認してください。また、改造などで不適切な取り付けを行わないでください。

#### □ 扇風機の注意事項

- 扇風機内部の電気部品は長期の使用により劣化するので、動きが悪い、動かなくなった、モーターから異音が生じる、異常に発熱する、焦げ臭いにおいがするといった症状が出た場合は、発熱や発火のおそれがあるため、使用を中止してください。
- 使用しないときは電源プラグをコンセントから抜いてください。

(※1) ルームエアコン(室外機、室内機)に加え、コンプレッサーを使用する冷温風機も含む。

(※2) ファンが見えないものやサーキュレーターを含む。USB接続の扇風機は含まない。

(※3) 消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大事故(ヒヤリハット情報(被害なし))を含む。

## 1. 事故の発生状況

### (1) 九州・沖縄8県におけるエアコン及び扇風機の事故 製品別 年度別 事故発生件数

九州・沖縄8県におけるエアコン及び扇風機の事故49件の「製品別 年度別 事故発生件数」のうちエアコンを図1-1に、扇風機を図1-2に示します。

2013年度から2017年度の5年間で、エアコン及び扇風機の事故計49件のうち48件で火災が発生しています。

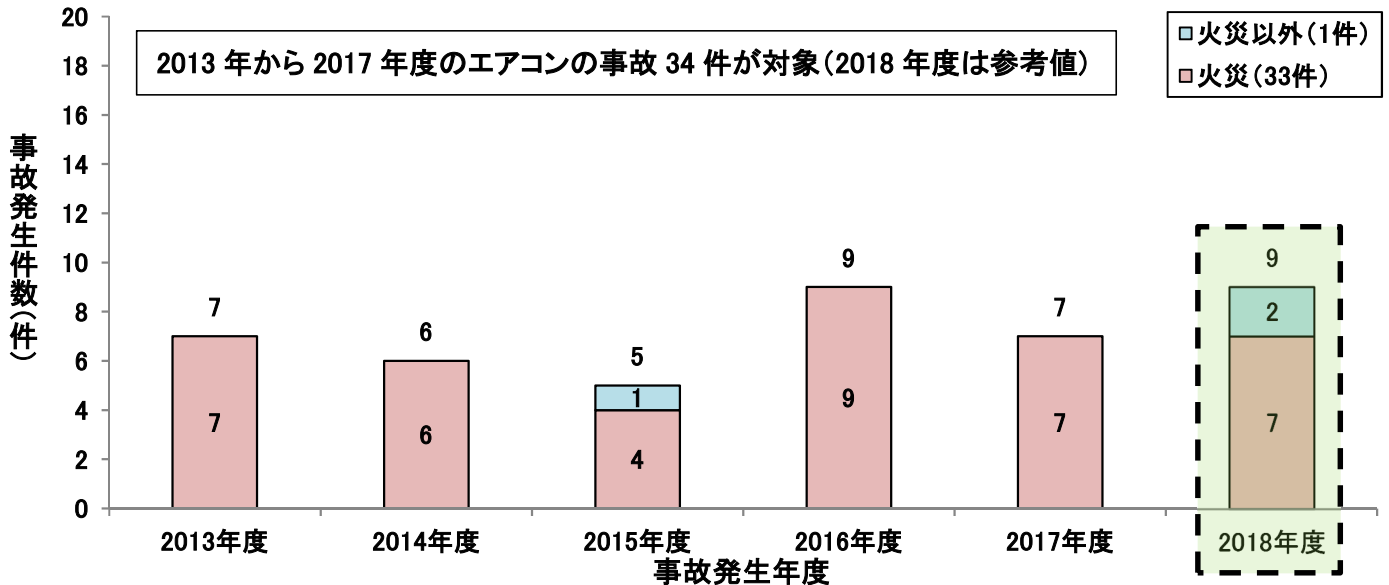


図1-1:九州・沖縄8県におけるエアコンの事故 製品別 年度別 事故発生件数

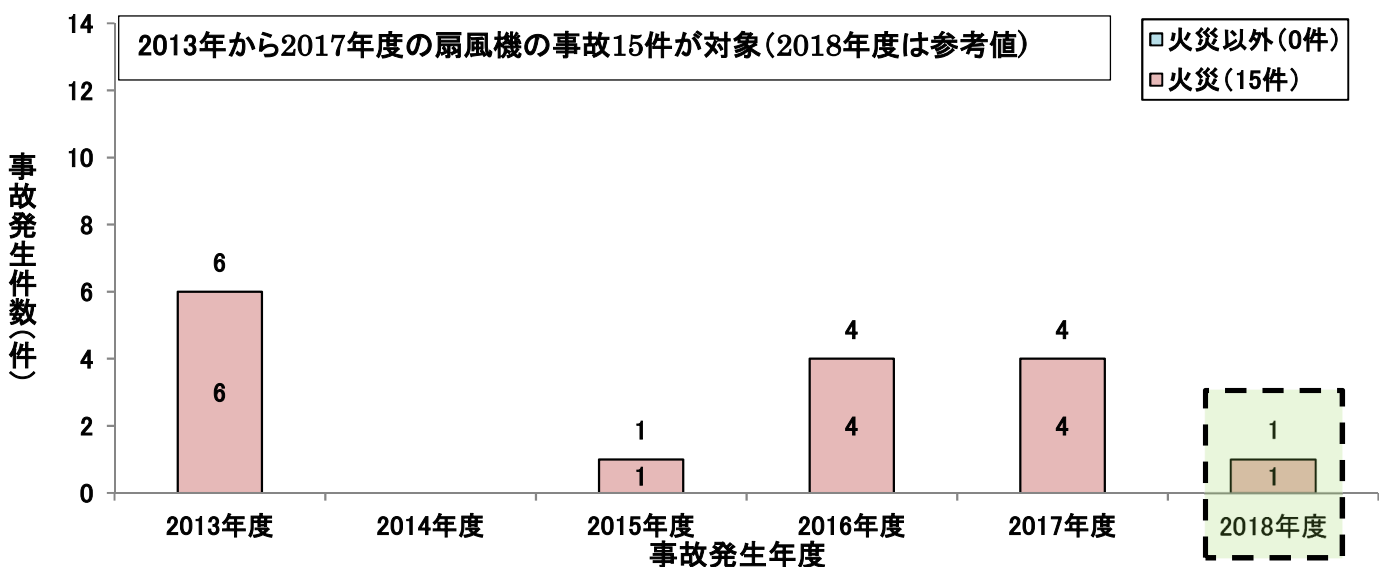


図1-2:九州・沖縄8県における扇風機の事故 製品別 年度別 事故発生件数

## (2) 九州・沖縄8県におけるエアコン及び扇風機の事故 製品別 月別 事故発生件数

九州・沖縄8県におけるエアコン及び扇風機の事故 49 件について、図2に「製品別 月別 事故発生件数」を示します。

エアコン及び扇風機の事故は6月から8月にかけて最も多く、年間の半数以上(28 件)がこの3か月で発生しており、すべて火災事故となっています。九州・沖縄8県では、火災が発生していないのは11月のエアコンの事故のみです。

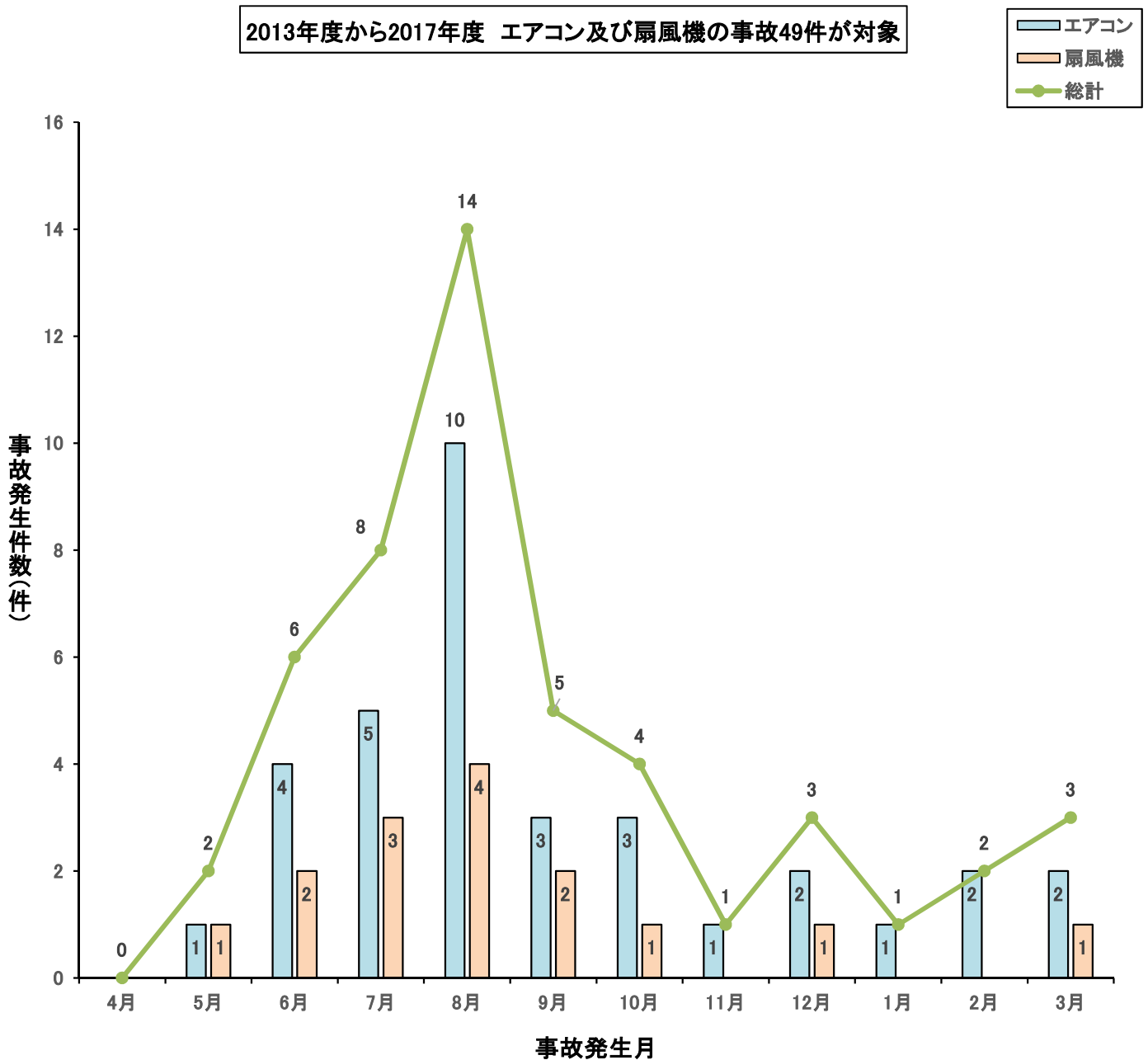


図2:九州・沖縄8県におけるエアコンと扇風機の事故 製品別 月別 事故発生件数

### (3) 九州・沖縄8県におけるエアコンの事故

#### (i) 事故原因区分別 事故発生件数

九州・沖縄8県におけるエアコンの事故34件のうち、調査が終了し、公表している31件について、図3に「事故原因区別 事故発生件数」を示します。

事故原因区分(全国版プレスリリース別紙1参照)に基づいて分類すると、

- 製品に起因する事故(事故原因区分 A、C、G3) 10件(32%)
- 製品に起因しない事故(事故原因区分 D、F) 9件(29%)
- 原因不明のもの(事故原因区分 G3を除くG) 12件(39%)

となっています。

エアコンによる事故は、「製品に起因する事故」が10件(32%)発生しています。内容は「はんだ付け不良」や「部品不良」による事故などが発生しており、10件のうち2件で事業者がリコールを開始しています。

また、製品に起因しない事故は9件(29%)発生しています。室外機が焼損した事故であるが調査した結果、製品に出火の痕跡がないものがあり、外火などの火災が疑われます。

そのほか、施工、修理又は輸送などに問題があったものとして、取り外し業者の作業ミスでコンプレッサーが破裂した事故が発生しています。

2013年度～2017年度 エアコンの事故 34 件のうち、調査が終了した 31 件が対象

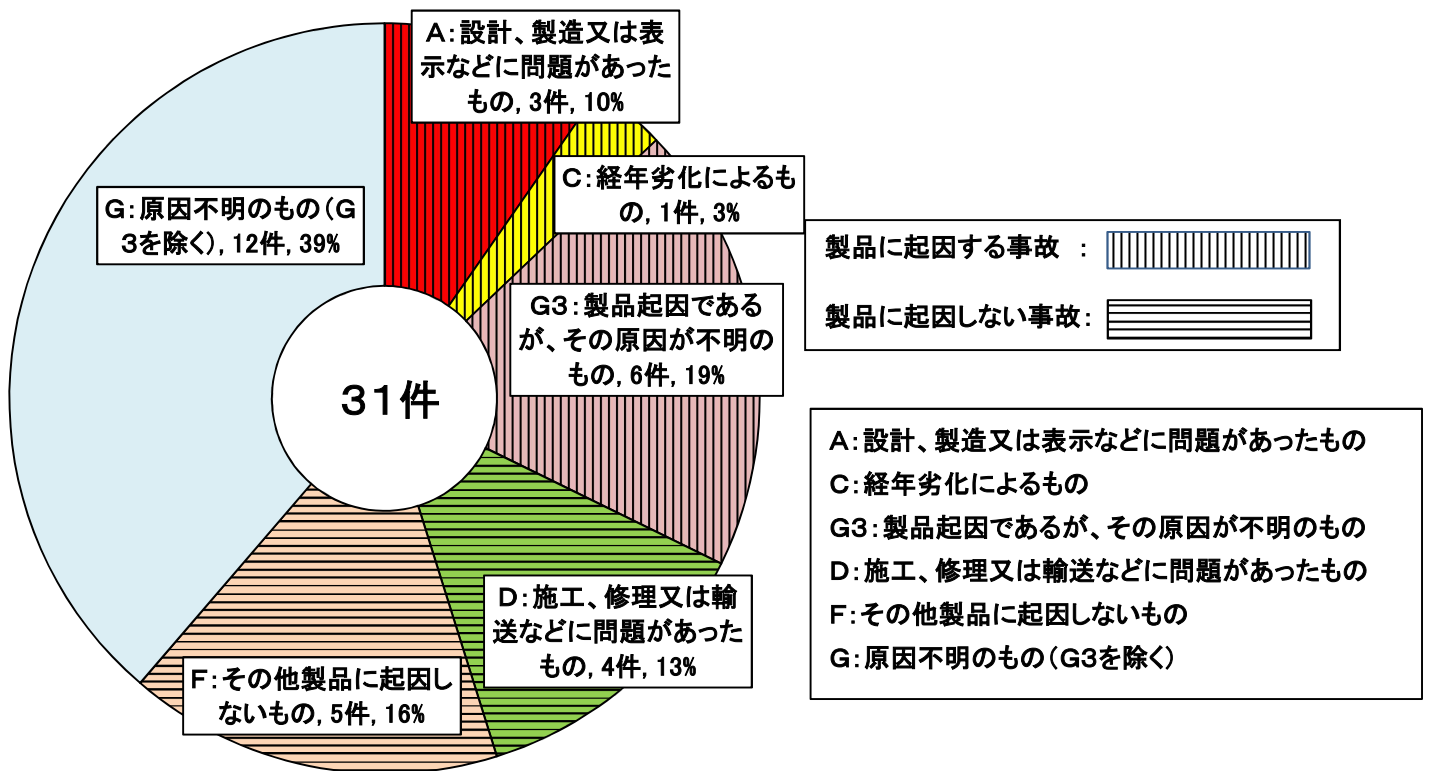


図3:九州・沖縄8県におけるエアコンの事故 事故原因区分別 事故発生件数

図4に九州・沖縄8県におけるエアコンの事故 34 件のうち、使用期間が判明した 29 件の「使用期間別 経年劣化事故発生件数」を示します。

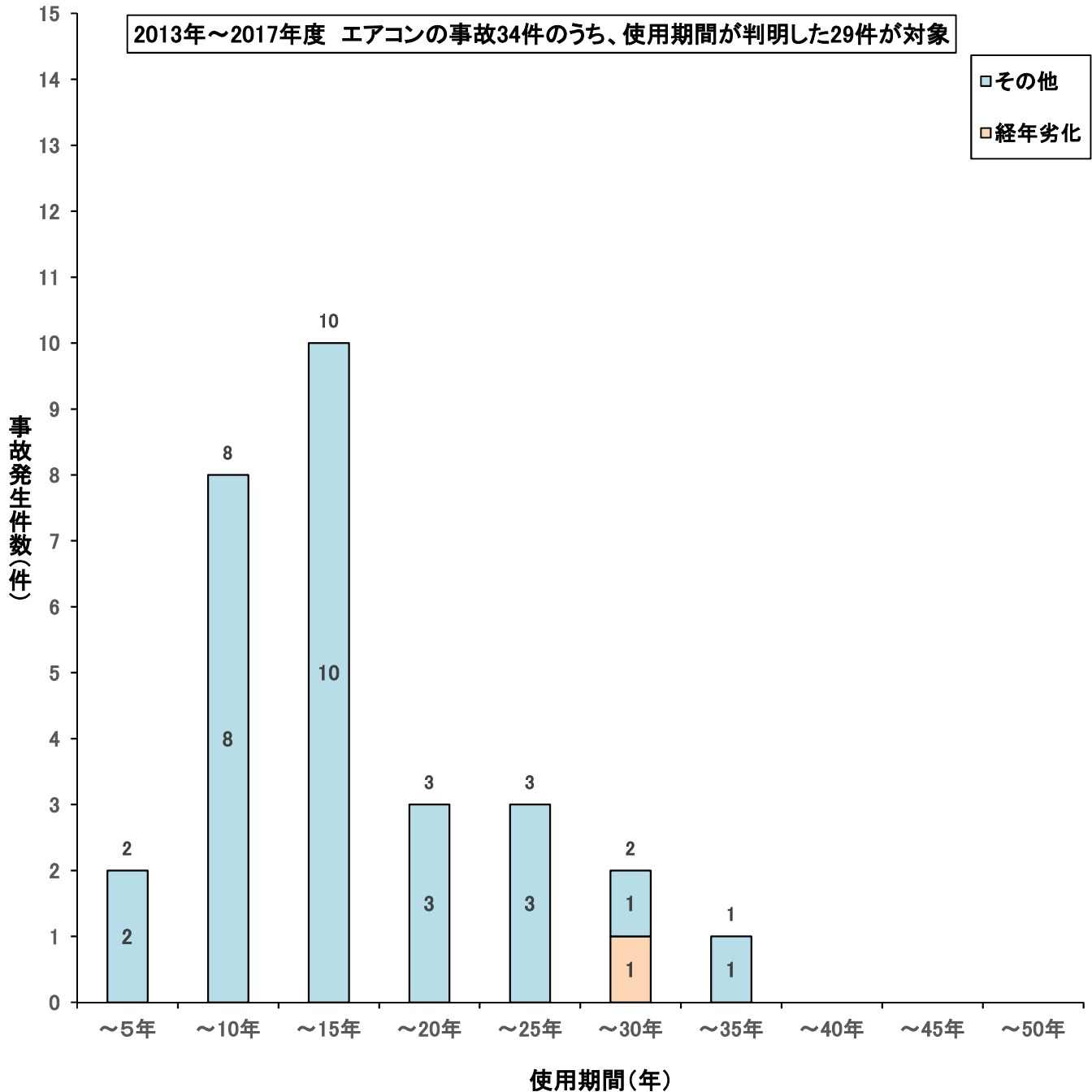


図4:九州・沖縄8県における扇風機の事故 使用期間別 経年劣化事故発生件数

表1に九州・沖縄8県におけるエアコンの事故 34 件の「事故原因区分別 被害状況別 事故発生件数」を示します。

表1：九州・沖縄8県におけるエアコンの事故 事故原因区分別 被害状況別 事故発生件数<sup>※4</sup>

事象	被害状況		人的被害			物的被害		被害なし	総計
			死亡	重傷	軽傷	拡大被害	製品破損		
製品に起因する事故	A: 設計、製造又は表示などの問題があったもの					2 [2]	1 [1]		3 (0) [3]
	C: 経年劣化によるもの					1 [1]			1 (0) [1]
	G3: 製品起因ではあるが、その原因が不明であったもの					1 [1]	5 [5]		6 (0) [6]
	小計	事故件数 被害者数 火災件数	0 (0) [0]	0 (0) [0]	0 (0) [0]	4 (0) [4]	6 (0) [6]	0 (0) [0]	10 (0) [10]
製品に起因しない事故	D: 施工、修理又は輸送などの問題があったもの					4 [4]			4 (0) [4]
	F: その他製品に起因しないもの					5 [5]			5 (0) [5]
	小計	事故件数 被害者数 火災件数	0 (0) [0]	0 (0) [0]	0 (0) [0]	9 (0) [9]	0 [0]	0 (0) [0]	9 (0) [9]
G: 原因不明のもの (G3を除く)			1 (1) [1]	0 (0) [0]	1 (1) [1]	9 (0) [9]	1 (0) [0]	0 (0) [0]	12 (2) [11]
H: 調査中のもの			0 (0) [0]	0 (0) [0]	0 (0) [0]	2 (0) [2]	1 (0) [1]	0 (0) [0]	3 (0) [3]
総計		事故件数 被害者数 火災件数	1 (1) [1]	0 (0) [0]	1 (1) [1]	24 (0) [24]	8 (0) [7]	0 (0) [0]	34 (2) [33]

(※4) 重複、対象外情報を除いた事故発生件数。人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害にはカウントしない。製品本体のみの被害(製品破損)に留まらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている。

(ii) 製品に起因する事故の事象別 年度別 事故発生件数

表2にエアコンの「製品に起因する事故」における「事象別 年度別 事故発生件数」を示します。

九州・沖縄8件におけるエアコンの事故で、リコール対象製品の事故は「基板の発火」による2件が発生しています。

表2:九州・沖縄8県におけるエアコンの製品に起因する事故 事象別 年度別 事故発生件数<sup>※5</sup>

事故の発生状況		2013	2014	2015	2016	2017	総計
基板の発火					5(1)	1(1)	6(2)
コンプレッサー付近から発火					1		1
内部配線の発火				1			1
コンデンサーの発火						1	1
その他電機部品の発火			1				1
総計	事故件数	0	1	1	6(1)	2(1)	10(2)

(※5) ( )はリコール対象製品の事故件数

(iii) 製品に起因しない事故の事象別 年度別 事故発生件数

表3にエアコンの「製品に起因しない事故」における「事象別 年度別 事故発生件数」を示します。

九州・沖縄8県におけるエアコンの事故で、「洗淨などによるファンモーター配線の発火」による事故が5件発生しています。

( )内は、内数で[D:施工、修理又は輸送などの問題があったもの]の事故の件数であり、主にエアコン洗淨業者や施工業者の不備によるものです。

表3:九州・沖縄8県におけるエアコンの製品に起因しない事故 事象別 年度別 事故発生件数

事故の発生状況		2013	2014	2015	2016	2017	総計
洗淨などによるファンモーター配線の発火		2(1)	2(1)		1(1)		5(3)
業者の不注意によるコンプレッサーの破裂						1(1)	1(1)
内部配線の発火		1					1
焼損しているが製品からの出火痕跡なし		1			1		2
総 計	事故件数	4(1)	2(1)	0	2(1)	1(1)	9(4)



## (4) 九州・沖縄8県における扇風機の事故

### (i) 事故原因区分別 事故発生件数

九州・沖縄8県における扇風機の事故15件について、図5に「事故原因区別 事故発生件数」を示します。

事故原因区分(全国版プレスリリース別紙1参照)に基づいて分類すると、

- 製品に起因する事故(事故原因区分 A、C、G3) 12件(80%)
  - 製品に起因しない事故(事故原因区分 D、F) 1件(7%)
  - 原因不明のもの(事故原因区分 G3を除くG) 2件(13%)
- となっています。

扇風機による事故は、「製品に起因する事故」が12件(80%)発生しています。中でも経年劣化によるものが7件(47%)と多く、古い扇風機の使用には注意が必要です。経年劣化による事故の例として、「長期使用によって絶縁劣化や接触不良等が生じ、異常発熱やショートして発火」などがあります。

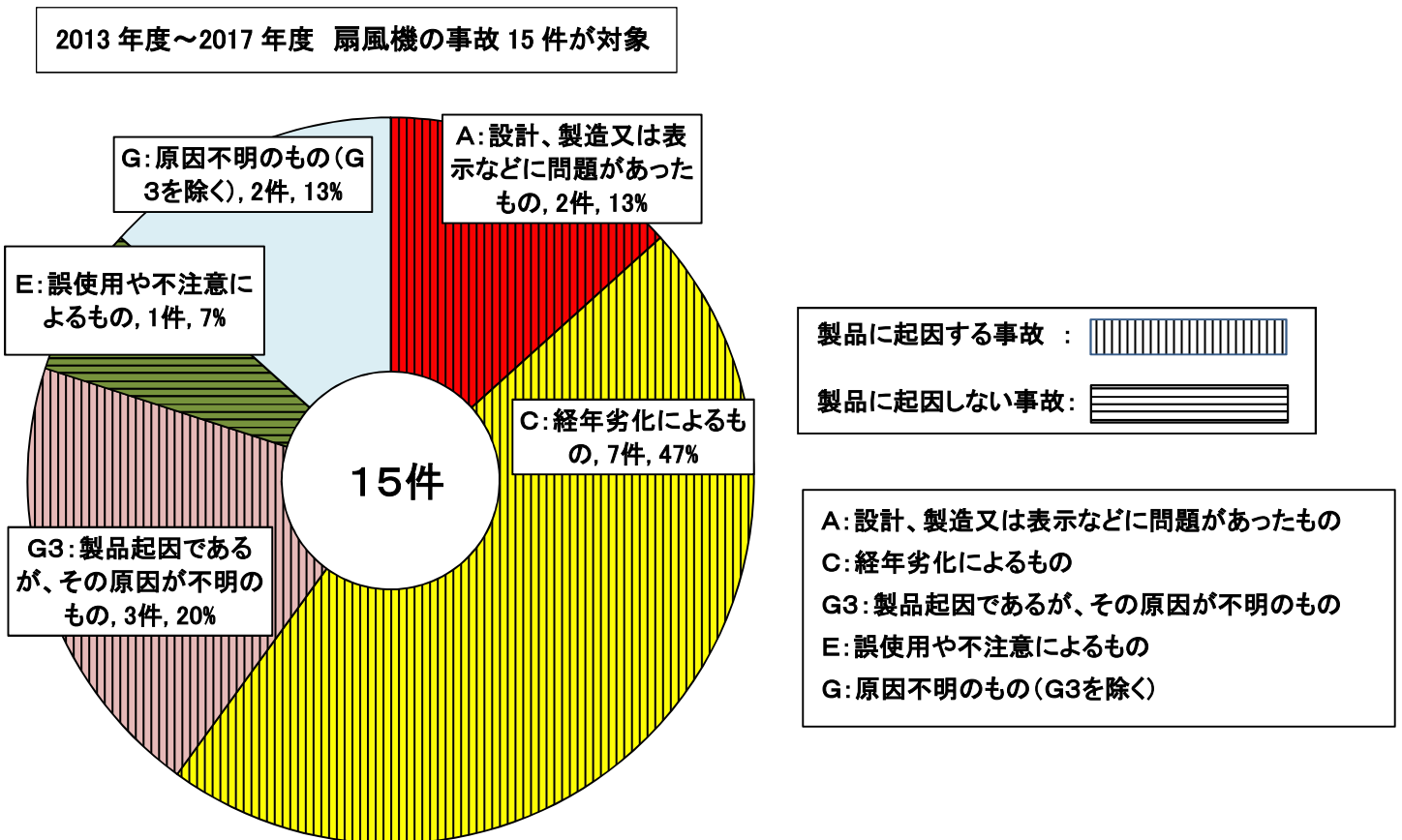


図5: 九州・沖縄8県における扇風機の事故 事故原因区分別 事故発生件数

図6に九州・沖縄8県における扇風機の事故 15 件のうち、使用期間が判明した 9 件の「使用期間別 経年劣化事故発生件数」を示します。

九州・沖縄8県において、経年劣化による事故は、使用期間が36年以上の製品で 5 件発生しています。

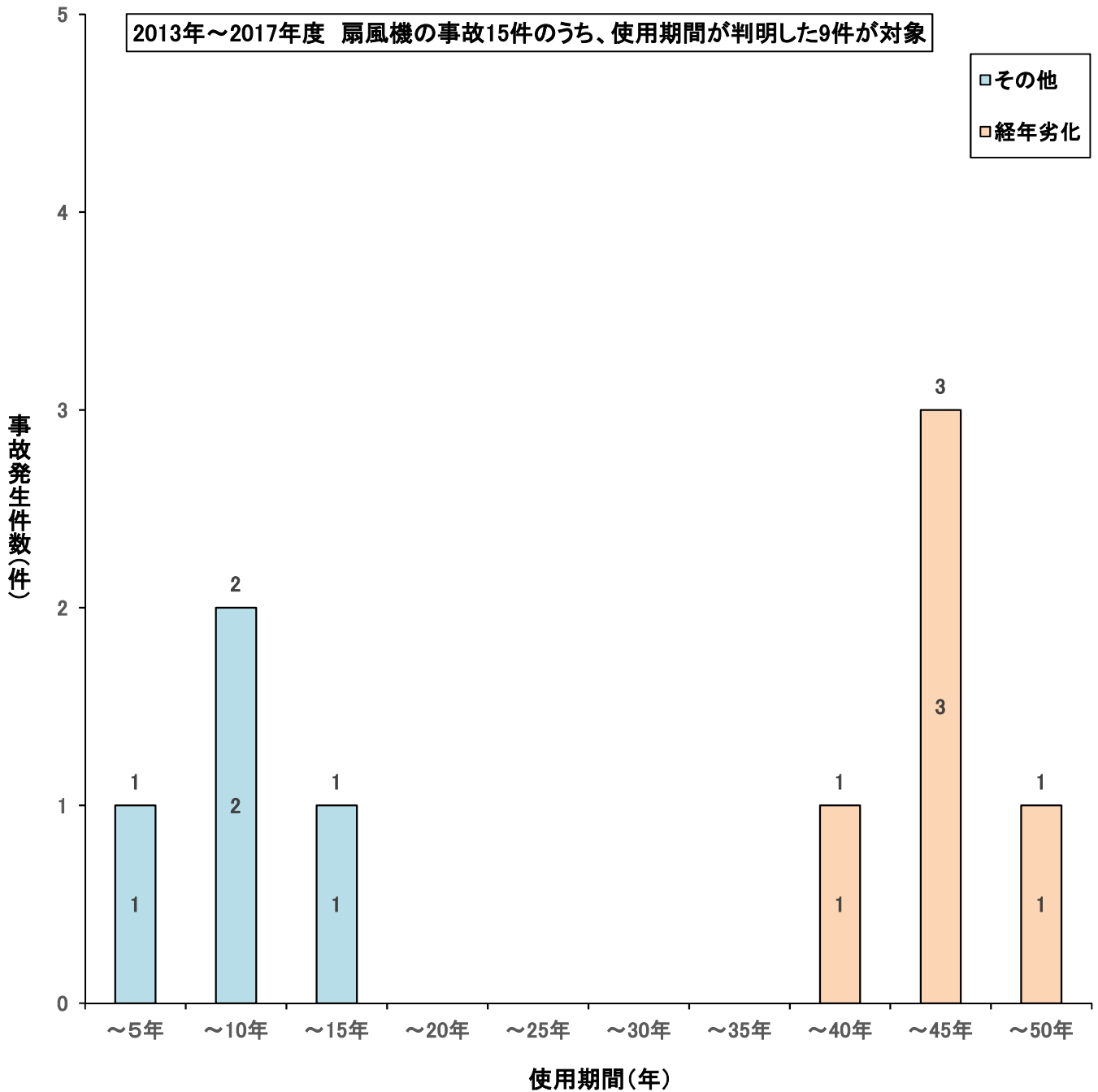


図6:九州・沖縄8県における扇風機の事故 使用期間別 経年劣化事故発生件数

表4に九州・沖縄8県における扇風機の事故 15 件の「事故原因区分別 被害状況別 事故発生件数」を示します。

表4：九州・沖縄8県における扇風機の事故 事故原因区分別 被害状況別 事故発生件数※4

事象	被害状況		人的被害			物的被害		被害なし	総計
			死亡	重傷	軽傷	拡大被害	製品破損		
製品に起因する事故	A: 設計、製造又は表示などの問題があったもの					2			2
						[2]			[2]
	C: 経年劣化によるもの					7			7
						[7]			[7]
製品に起因しない事故	G3: 製品起因ではあるが、その原因が不明であったもの					3			3
						[3]			[3]
	小計	事故件数 被害者数 火災件数	0 (0) [0]	0 (0) [0]	0 (0) [0]	12 (0) [12]	0 (0) [0]	0 (0) [0]	12 (0) [12]
	E: 誤使用や不注意によるもの					1			1
					[1]			[1]	
小計	事故件数 被害者数 火災件数	0 (0) [0]	0 (0) [0]	0 (0) [0]	1 (0) [1]	0 (0) [0]	0 (0) [0]	1 (0) [1]	
G: 原因不明のもの (G3を除く)					2	0	0	2	
					(0)	(0)	(0)	(0)	
					[2]	[0]	[0]	[2]	
H: 調査中のもの					0	0	0	0	
					(0)	(0)	(0)	(0)	
					[0]	[0]	[0]	[0]	
総計	事故件数 被害者数 火災件数	0 (0) [0]	0 (0) [0]	0 (0) [0]	15 (0) [15]	0 (0) [0]	0 (0) [0]	15 (0) [15]	

(※4) 重複、対象外情報を除いた事故発生件数。人的被害と物的被害が同時に発生している場合は、人的被害の最も重篤な分類でカウントし、物的被害にはカウントしない。製品本体のみの被害(製品破損)に留まらず、周囲の製品や建物などにも被害を及ぼすことを「拡大被害」としている。

(ii) 製品に起因する事故の事象別 年度別 事故発生件数

表5に扇風機の「製品に起因する事故」における「事象別 年度別 事故発生件数」を示します。

九州・沖縄8県における扇風機の事故で、リコール対象製品の事故は「コンデンサーの発火」2件と「内部配線の発火」1件の計3件発生しています。経年劣化による事故は、「コンデンサーの発火」4件と「内部配線の発火」1件、「モーターの発火」1件、「電源コードの発火」1件の計7件あり、古い製品を使用されている場合は、買い換えをご検討してください。

表5:九州・沖縄8県における扇風機の製品に起因する事故 事象別 年度別 事故発生件数<sup>※5</sup>

事故の発生状況		2013	2014	2015	2016	2017	総計
コンデンサーの発火		3(2)			2		5(2)
内部配線の発火					2(1)	2	4(1)
モーターの発火		1				1	2
電源コードの発火		1					1
総計	事故件数	5(2)	0	0	4(1)	3	12(3)

(※5) ( )はリコール対象製品の事故件数

(iii) 製品に起因しない事故の事象別 年度別 事故発生件数

表6に扇風機の「製品に起因しない事故」における「事象別 年度別 事故発生件数」を示します。

表6:九州・沖縄8県における扇風機の製品に起因しない事故 事象別 年度別 事故発生件数

事故の発生状況		2013	2014	2015	2016	2017	総計
電源コードの発火						1	1
総計	事故件数	0	0	0	0	1	1

## 2. エアコンと扇風機の事故事例

九州・沖縄8県におけるエアコンと扇風機の事故事例を示します。

### (1) リコール対象製品によるエアコン室外機の発火

2016年12月(長崎県、年齢不明・性別不明、製品破損)

#### 【事故内容】

エアコンを使用中、エアコンの室外機を焼損する火災が発生した。

#### 【事故原因】

室外機のプリント基板のダイオードブリッジのはんだ接続部で、はんだ量が少なく、プリント基板と電装品箱の熱伸縮の差により、はんだ接続部に繰り返し応力が掛かり、はんだクラックが発生し、発煙・出火に至ったものと考えられる。

なお、製造業者は、2004年10月18日にウェブサイトにて情報を掲載し、翌10月19日に新聞社告を行うとともに、継続的に新聞折込チラシやダイレクトメールの送付を行い、無償点検・改修を実施している。

### (2) 取り外し業者の作業ミスによるコンプレッサーの破裂

2017年9月(福岡県、20歳代・女性、拡大被害)

#### 【事故内容】

エアコンの冷媒回収作業をしていたところ、室外機付近から異音が出た。

#### 【事故原因】

取り外し業者の作業ミスにより、圧縮機内に空気が入り込んだため、圧縮機内部が異常高温・高圧状態となり、破裂したものと考えられる。なお、本体及び据付説明書には、「空気を混入させない。破裂する危険がある。」旨、表示されているが、取り外し業者は特定できなかった。

### (3) エアコン洗浄時の洗浄剤の付着によるファンモーター配線の発火

2016年5月(沖縄県、40歳代・男性、拡大被害)

#### 【事故内容】

エアコンのスイッチを入れたところ、エアコン及び周辺を焼損する火災が発生した。

#### 【事故原因】

住宅管理業者によるエアコン洗浄が過去複数回実施されており、エアコンのファンモーターのコネクター部に、エアコン洗浄時の洗浄剤が付着したため、コネクター端子間でトラッキング現象が生じて出火に至ったものと考えられる。なお、(一社)日本冷凍空調工業会では、ホームページ上において、「エアコン内部の洗浄は高い専門知識が必要です。もし誤った洗浄剤の選定、使用方法で内部洗浄を行うと、エアコン内部に残った洗浄剤で、樹脂部品の破損、電気部品の絶縁不良などが発生し、最悪の場合は、発煙、発火につながる恐れがある」旨、注意喚起を行っている。

### (4) 長期使用による絶縁劣化などが生じ、扇風機が異常発熱やショートして発火

2016年6月(鹿児島県、年齢不明・性別不明、拡大被害)

#### 【事故内容】

扇風機及び周辺を焼損する火災が発生した

#### 【事故原因】

扇風機は長期使用(約44年)によりモーター用運転コンデンサーの絶縁性能が低下したため、内部短絡が生じて異常発熱し、出火に至ったものと考えられる。

### 3. エアコンと扇風機の事故の実験映像の提供

エアコンと扇風機の事故の実験映像の写真及び動画をご希望の場合は、下記のお問い合わせ先までご連絡ください。

なお、映像をご使用の際、クレジットは「製品評価技術基盤機構+nite ロゴ」としてください。

※nite ロゴ



(本件に関する問い合わせ先)

〒815-0032 福岡県福岡市南区塩原 2-1-28  
独立行政法人製品評価技術基盤機構  
九州支所 技術課  
担当者 澤田、篠崎

電話:092-551-1315、FAX:092-551-1329  
[e-mail:sawada-mitsuhiro@nite.go.jp](mailto:sawada-mitsuhiro@nite.go.jp)  
[e-mail:shinozaki-kenzo@nite.go.jp](mailto:shinozaki-kenzo@nite.go.jp)

以上